

予報期間 10月20日から10月26日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- ・台風第30号については最新の台風予報を参照。
- ・22日は、低気圧がカムチャツカ半島付近へ進む。
- ・22日から23日にかけて、高気圧が日本海から日本の東へ移動する。
- ・22日から24日にかけて、前線が日本の南から西日本付近へ北上する。
- ・25日から26日にかけて、前線が黄海から日本海を通り、日本の東へのびる。

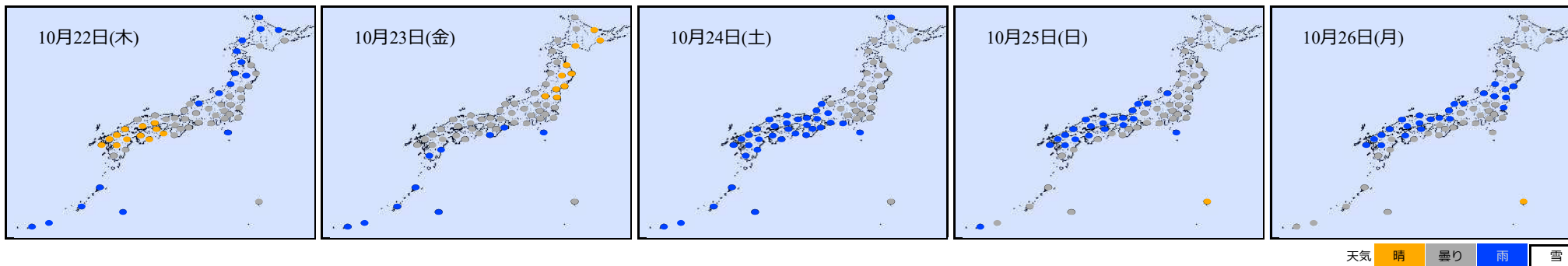
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- ・22日にかけて、北日本では、低気圧の影響で荒れた天気となり、低気圧の発達程度等によっては大荒れとなるおそれがある。
- ・22日から24日頃は、沖縄・奄美では、台風第30号の影響で大荒れや大しけとなり、台風の進路等によっては警報級の高潮となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

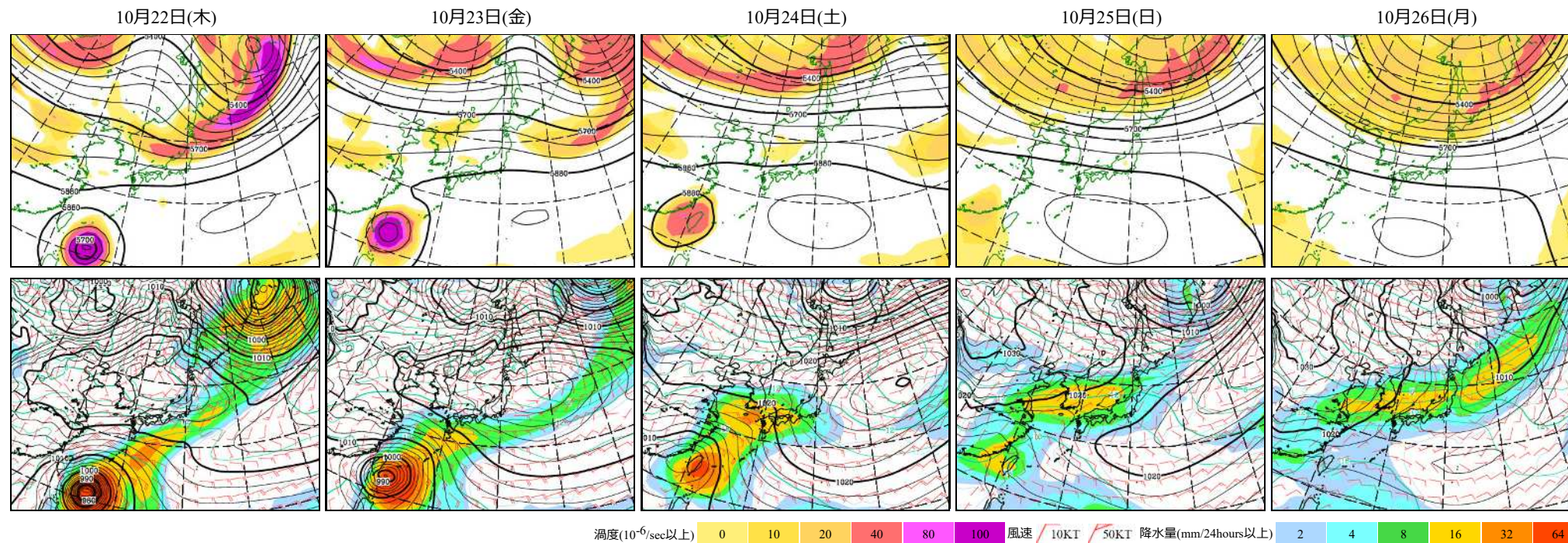
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

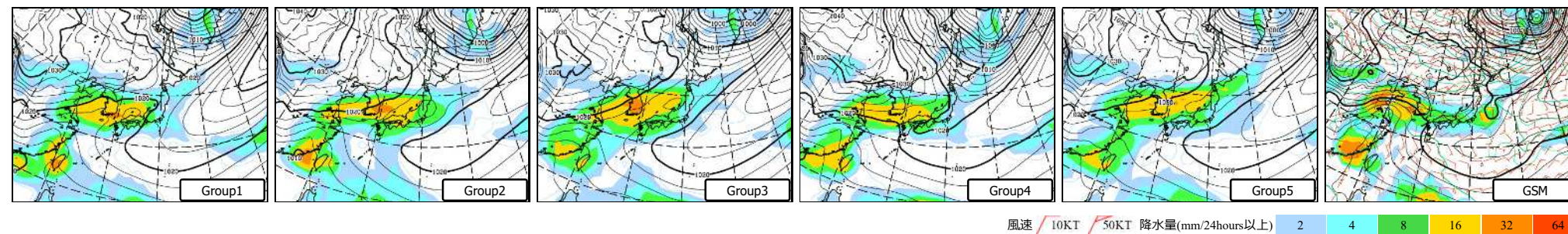


- ・北日本は、曇りや雨の降る日が多いが、23日は晴れる所がある。
- ・東日本と西日本は、曇りや雨の降る日が多いが、22日は晴れる所がある。
- ・沖縄・奄美は、曇りや雨の降る日が多い。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、850hPa気温、前24時間降水量(21時)



◆10月25日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSM予想図 海面気圧、地上風及び850hPa気温(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、22日から23日にかけてカムチャツカ半島付近を東進する寒冷渦が少し北にずれた。23日から25日にかけてオホーツク海北部を東進するトラフは早まった。一方、日本の南では23日にも500hPa 5940mの等高線が見られるようになり、日本の南で亜熱帯高気圧の強まりが小笠原諸島付近から沖縄付近へゆっくり西進する予想が明瞭となった。地上では、24日の降水域について、対馬海峡付近に強まりがみられるようになり、前線の北上が早まったことを示唆しているとみられる。
- 25日に黄海から朝鮮半島付近へ前線がのびる予想は各モデルとも揃っているが、前線上に低気圧が発生するかどうかや、降水域の東への広がりについてはモデル差が大きい。
- 期間の終わりについてはスプレッドが次第に大きくなり、特定高度線のばらつきもみられる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。